

第1章 新たな県立高校将来構想の策定

本県の高校教育改革の取り組み状況

新たな県立高校将来構想の位置づけ

第2章 本県の高校教育を巡る現状と課題

(社会経済環境の変化)

(県立高校の教育環境の変化)

社会経済環境の変化

県立高校の現状と課題

(1) 知識基盤社会の到来

○知識が社会・経済を駆動する社会の到来

(2) 教育に対する社会の要請への対応

○社会的・時代的要請を受けた教育内容の在り方検討

(3) 義務教育と高等教育とをつなぐ高校教育

○社会で自立できる基礎・基本の着実な定着
○高等教育への接続教育への在り方検討

※時代的・社会的要請に応えるための制度変更

(2) 家庭・地域の教育力の低下

○家庭の教育的機能の低下
○地域の教育力が低下

(3) 若年層の目的意識の希薄化

○高い離職率・ニート・フリーターの増大

(4) 分権型社会の進展と厳しい財政状況

○限られた財源で最大効果を得る必要性
○社会総がかりで取り組む必要性

(5) 少子化の進展

○H22→H32年で県内中卒者数が約3,200人減少

(1) 高校教育を巡る国の動き

○教育基本法、学校教育法等の改正
○教育振興基本計画の策定→社会全体での教育の向上
○高等学校学習指導要領の改訂
→義務教育段階での学習内容の確実な定着、キャリア教育の推進、地域との連携、道徳教育の全体計画作成等

(4) 生徒数減少と学校規模の縮小

○生徒数減少を踏まえた高校教育の在り方検討

◎適正な学級編成、教育の機会均等に配慮した学校・学科配置

第3章 今後の県立高校教育の在り方

(高校教育の目的=理念)

(今後10年間の取組の方向性)

本県高校教育における人づくりの方向性

高校教育改革の取組の方向性

(1) 時代を生き抜く力の育成

(2) 人と関わる力の育成

【教育内容】

(1) 学力の確実な定着

(2) 社会での生き方を探求するキャリア教育の充実

【教育内容を支える環境整備】

(3) 地域に生きる学校づくりの推進

(4) 学校経営の改善、教育環境の充実

第4章 社会の変化に的確に対応した学科編成・学校配置の考え方

学科等の在り方

○基本となる普通教育・専門教育を受けられる機会の確保
○産業構造や就業状況の変化に対応した専門学科の配置
○仙台地区や郡部等各地区の学校配置、産業構造など違いを踏まえた学科の配置
○生徒や産業界の動きを踏まえた特色ある専門教育の検討
○多様な学びや進路希望に対応した学科・過程等配置

(1) 普通科

(2) 専門学科

(3) 総合学科

(4) 総合産業高校

(5) 中高一貫校

(6) 単位制高校

(7) 定時制高校

(8) 通信制高校

地区別の県立高校再編の方向性

(1) 南部地区

(2) 中部地区

(3) 大崎地区

(4) 栗原地区

(5) 登米地区

(6) 石巻地区

(7) 本吉地区

学校配置の考え方

○未来を担う人づくりに適した教育環境、教育内容の整備充実が重要
○小規模化の現状から統合を含む再編が不可避

(1) 機会均等への配慮

(2) 活力維持や教育機能を十分発揮し得る学校規模

(3) 地域との関わり

(4) 市立高校・私立高校との適切な役割分担

(5) 小規模校の対応

教育内容

教育環境

(社会的要請)

(社会変化)

(人口変化)

(制度変化)

第5章 将来構想の推進

家庭・地域社会への期待

(1) 役割分担の明確化と連携促進

(2) 家庭の教育力向上に向けて

(3) 地域の教育力向上に向けて

適正な進行管理

(1) 実施計画策定の必要性

(2) 適正な進行管理